

# ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

## 千葉県経済の動き — 中小企業動向を中心に —

### 概況

県内経済は、昨年秋口以降着実に回復の歩みを強めている。企業の業況判断が、統計開始以来最高の水準となるなど、回復の動きは中小企業にも広がっている。

これは、企業の生産活動の活発化に伴う収益改善や、株価の回復、昨年末ボーナスの増加などにより、企業経営者や消費者が、景気回復の持続性に対する確信を強めていることが大きいと見られる。

県内小売業の販売動向を見ると、10月の千葉ロッテ優勝セールに加え、11月下旬からの記録的な寒波到来により、冬物衣料や暖房器具の販売が好調に推移した。また、企業業績の好転を映じた年末ボーナス支給増など、所得環境の改善を背景に、消費の回復傾向は百貨店や外食産業、携帯電話販売などに広がりを見せている。もともと、乗用車新車登録台数は、2004年夏以降の新型車発売効果が剥落して前年割れが続いているほか、コンビニや観光施設などでも、厳冬で客足が伸び悩み、かえって売上減少に作用したとの声も聞かれる。

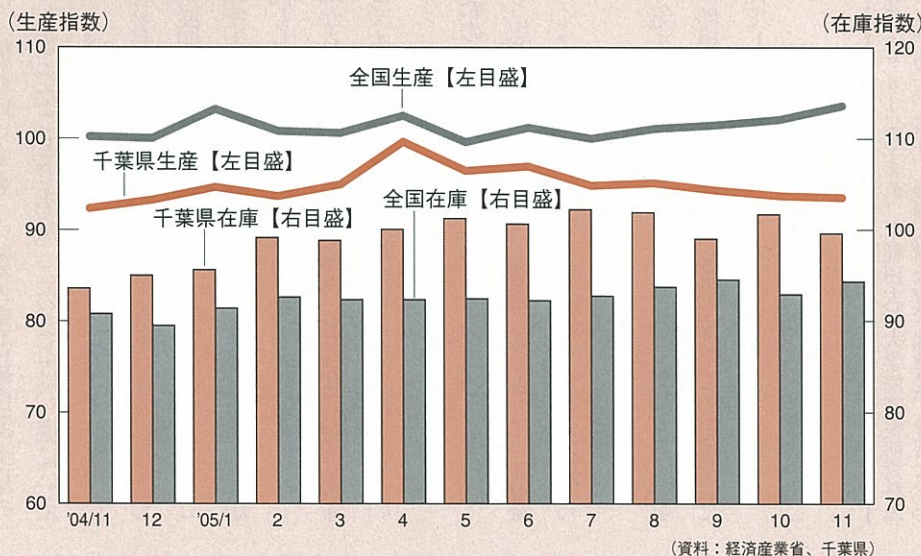
10～12月期の新設住宅着工戸数は、前年同期比+二三・五%増加した。分譲マンション（同+一六七・五%）、分譲戸建（同+八・二%）ともに好調が続いている。公共工事請負金額は、前年同期比+三・〇%と六期ぶりに前年を上回ったものの、年度累計では▲一〇・一%と減少が続いている。

1月実施の千葉県企業経営動向調査によれば、05年度設備投資計画額は全産業で前年実績を+〇・四%上回っている（同・製造業+五・八%、非製造業▲二・五%）。期初計画比でも、+〇・三%とわずかながら上方修正となった。特に、製造業の中小企業が期初計画比+十三・五%と大幅上方修正しているのが目だつ。

雇用面では、千葉県の10～12月中の有効求人倍率（季節調）は〇・八三倍と、二期ぶりに改善した。県内企業では、中小企業で雇用不足感が強まっている。

（菅谷）

■ 鉱工業生産・在庫指数（季節調整済、2000年=100）



## 消費関連

県内小売業の販売動向は、雇用や所得の伸び、千葉ロッテ優勝セーラー、記録的な寒波の到来などもあって、全体としてはやや上向きとなっている。

すなわち、05年半ば以降、専門店モールやショッピングセンター、通信販売などで販売好調な先が見られていたが、秋口には県内百貨店（主要七か店）合計の05年10～12月期売上が七期ぶりに前年実績比増加したほか、ホームセンター売上も暖房器具などの季節商

品に動向が見られ前年実績を上回った。また、外食産業では宴会やおせち料理の需要が回復するなど、販売増加の動きが業態を超えて広がっている。

一方、県内の乗用車新車登録台数（軽を含む）は、04年夏以降の新型車発売効果が剥落し、前年を下回っているほか、コンビニの売り上げも、競合激化から前年割れが続いている。また、家電販売では、厳冬の影響で暖房器具の販売が大幅増加したが、DVDやデジタルカメラ販売の低迷などから、全体では同やや減少した。（関）

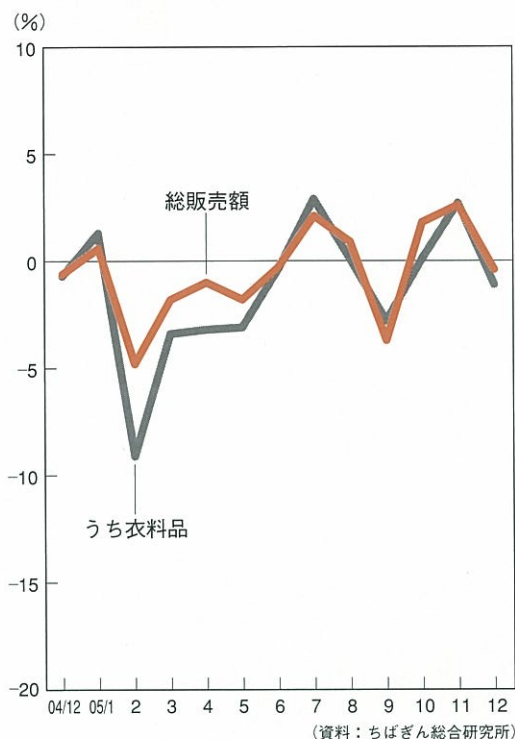
## 食料品

県内食料品メーカーの生産BSIは、三期連続で改善し「増加」超となった（4～6月期▲九・〇↓7～9月期▲一・八↓10～12月期▲一・五）。売上BSIも改善が続いているが、依然として「減少」超のままであった（4～6月期▲十二・二↓7～9月期▲八・四↓10～12月期↓四・二）。これは、少子高齢化の進展などから、食料品消費の伸びが抑えられる一方で、一般消費者の低価格志向は根強く、製品価格の低下が続

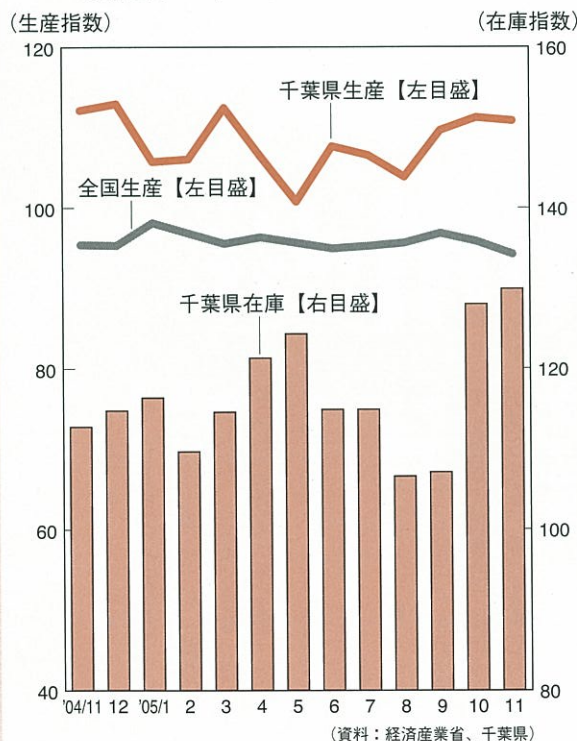
いていることが影響している。国内外で発生している鳥インフルエンザの影響で、輸入鶏肉は、これまで目だった感染事例のないブラジル産の価格が高止まりしている。食品加工業者は、国内産割合の引き上げや、インド産など調達先の見直しを実施している。

昨年12月に米国産牛肉の輸入が再開されたものの、06年1月20日に、成田空港で特定危険部位である脊柱の混入が見つかり、再び輸入停止になった。再開後に輸入されていた牛肉はわずかな量にとどまり、再度の輸入停止にも影響は限定的であった。（菅谷）

■千葉県百貨店販売額伸び率（対前年同月比）



■食料品の生産・在庫指数  
（季節調整済、2000年=100）



## 住宅・建設

05年10～12月期の新設住宅着工戸数は、前年同期比+23・5%増加した。特に、分譲マンション(同+16・7・五)、分譲戸建(同+8・二)は、合計で八六〇七戸となり、合計で八〇〇戸を超えたのは、95年4～6月期以来一〇年六か月ぶりという好調が続いている。

こうした住宅需要の盛り上がり背景に、1月に県企業庁が実施した浦安の県有地の入札では、予定価格八六億円に対し落札価格は二二〇億円(坪単価約一五〇万円)

まで高騰した。落札した企業は、三年以内のマンション建設を予定している。

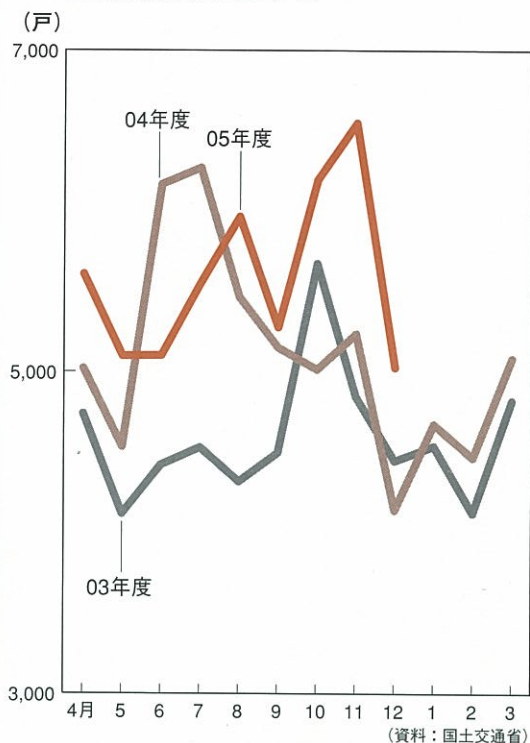
05年10～12月期の県内公共工事請負金額は、前年同期比+三・〇%と六期ぶりに前年を上回ったものの、4月からの年度累計では同▲一〇・一%減少と前年水準を下回っており、県内企業のうち、公共工事の割合が高い企業には厳しい状況。発注先別に見ると、国(同+八六・一%)と市区町村(同+四・三%)、地方公社(同+六三・八%)は増加したが、予算規模の大きい公団・事業団(同▲二七・二%)と県(同▲二・九%)は減少が続いている。(菅谷)

## 機械

県内電気機械メーカーの05年10～12月期の生産BSIは、七期ぶりに大幅改善(7～9月期▲三一・三→10～12月期+二七・八)した。04年のアテネ五輪以降長期間続いていた半導体関連製品の在庫調整は終了し、年末商戦向けの生産が増加した。今後も薄型テレビ、デジタル家電、第三代携帯電話等の普及増加が見込まれている。しかし、最終製品価格は引き続き低下しており、収益は依然厳しい模様。

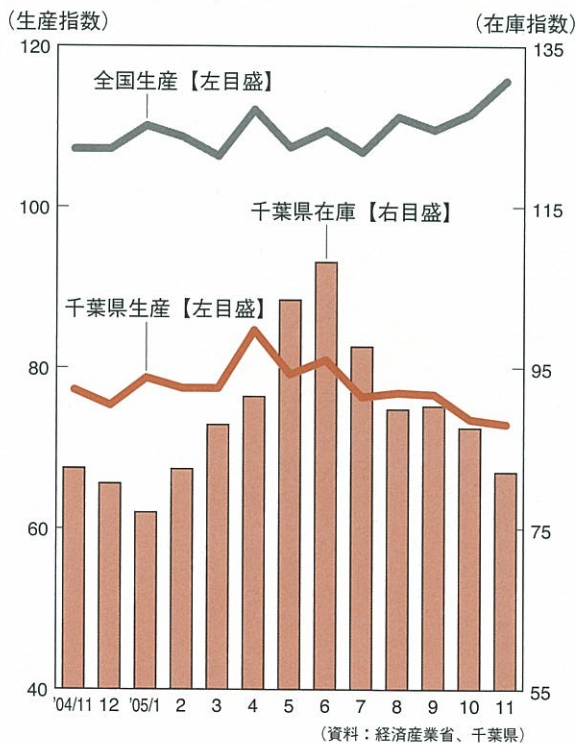
県内一般・精密機械メーカーの10～12月期の生産BSIは、▲七・二と七期ぶりに「減少」超となったが、対応できないほどの受注や生産が若干落ち着いたことによるもので、生産水準は依然高く、1～3月期の見通しは+三・六と再び「増加」超となる見込み。業界では近年の好況を反映して正社員を積極的に採用する動きが見られる。特に技術系の人材は売り手市場で、採用担当者からは、2007年問題もあり若手を中心に採用したいが、県内の中小企業には見向きもしないとの声も聞かれる。(酒井)

■千葉県新設住宅着工戸数



■機械の生産・在庫指数

(季節調整済、2000年=100)



## ITソフト

情報サービス業（全国）の売り

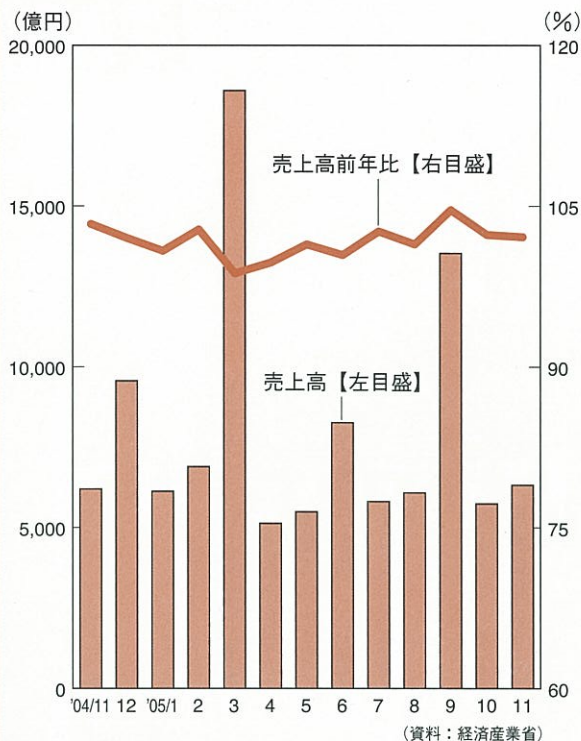
上げは、七か月連続で前年実績を上回り、順調に推移している（前年同月比：10月+2.3%、11月+1.4%）。千葉県内のIT関連企業四〇社で構成する協同組合の動向調査でも、売り上げ・受注とも増加傾向にある。業種別では、統合などでシステム投資が増加している銀行や、インターネット利用の個人投資家の参入増加による株式市場の拡大を受け、証券会社からの受注が増加している。

そのほか、自動車など製造業からの受注も増加している。

また、個人情報保護や情報漏えい防止などの問題は、これまでの大手企業だけでなく、最近では中小企業においても対応を迫られており、県内IT企業の間では、ソフト開発需要は、今後二～三年は堅調に推移するとの強気の見通しをしている先が多い。

県内IT企業に対する引き合いは多いが、慢性的な従業員不足から受注を増やせない状況で、県内IT企業の間では新卒・中途を問わず採用を積極化している先が目立つ。（菅合）

■ ITソフト産業売上高（全国）



## 窯業・土石

生コンの県内主要協同組合（北

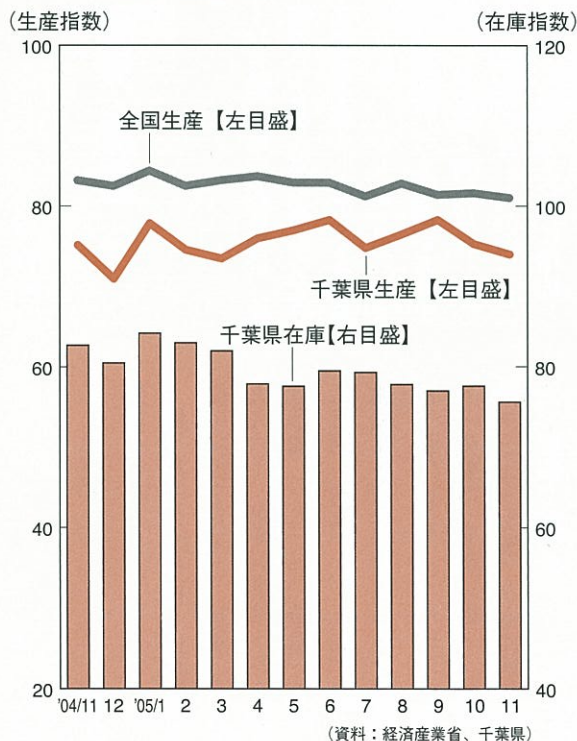
部・西部・中部）の10～12月期の出荷量は、引き続き高水準で推移し、六期連続で前年を上回った（前年同期比：05年4～6月期+37.3%、7～9月期+23.9%、10～12月期+9.0%）。

千葉県北部地区（柏・松戸・野田など）では、柏、松戸地区で活発なマンション建設に加え、3月にオープンを予定しているイオン南柏SCなどが建設中で、出荷量の大幅な増加が続いている（同+8

四・一%↓+六三・一%↓+三一・〇%）。06年に入り、つくばエクスプレス駅周辺の開発が進んでおり、先行きについても強気の見通し。

千葉県西部地区（浦安・市川・船橋など）では、市川、船橋地区でマンション建設が活発なことに加え、南船橋の屋内スキー場「ザウス」跡地への大型家具店など、商業施設の建設もあり、出荷量は前年を上回っている（同+23.6%↓+34.8%↓+16.7%）。06年も市川駅南口・本八幡駅北口の再開発や、大型マンション建設が予定されており、高水準の出荷が続く見込み。（菅合）

■ 窯業・土石の生産・在庫指数  
(季節調整済、2000年=100)



## 鉄鋼 石油・化学

### 鉄鋼

05年10～12月期の県内高炉メーカーの粗鋼生産量は、前期比微減となるも高水準の生産が続いている。当初▲一〇％程度の減産を予定していたものの、減産は市中在庫が増加していた汎用鋼材に限られ、反対に自動車や造船向けの高級鋼材については増産を実施した。鉄鋼大手各社は、汎用鋼材の在庫調整は、05年度中に終わる予想。高級鋼材の需要拡大は続くと判断し、大型の設備投資により

高級鋼材の比率の引き上げを計画している。  
(菅合)

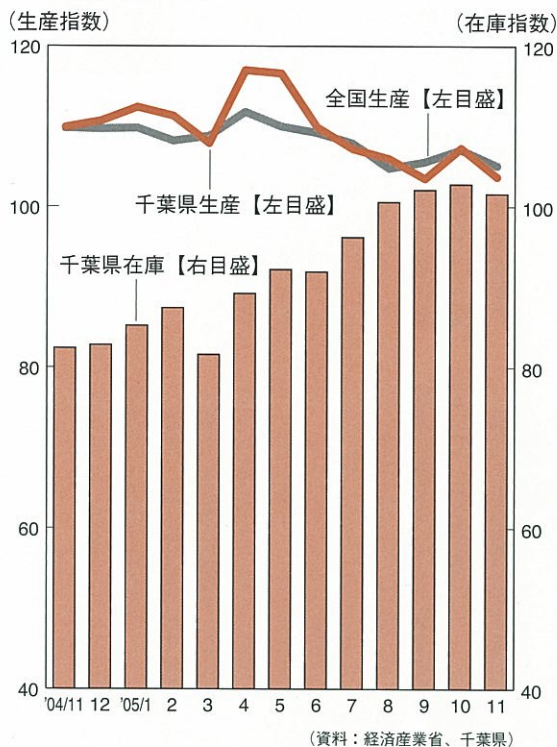
### 石油・化学

県内石油・化学業界の10～12月期の売り上げは堅調に推移した。しかし、ドバイ原油価格が五〇ドル／バレル前後に高止まりしており、収益面では厳しい状況が続いている。1月に入り原油価格は再び上昇し、過去最高となる六〇ドル／バレル台に突入。県内加工メーカーは、原料価格のさらなる値上げに警戒している。

一方、スタンドでの灯油販売量は前年並み。寒波の恩恵よりも、価格高騰による灯油離れの影響が大きかった模様。  
(酒井)

### 鉄鋼業の生産・在庫指数

(季節調整済、2000年=100)



## 農業・漁業

### 農業

10～12月期の県内農産物は、寒波の到来による生育の遅れなどから生産数量が減少したところが多い。キュウリ、トマトなどのハウス農家は暖房燃料のA重油が前年比一・五倍に高騰(04年12月…四〇円/ℓ ↓ 05年12月…六〇円/ℓ)したため、経費が大幅に増加した。そのため、例年より暖房の設定温度を低くして燃料消費を抑えているが、気温が低いいため生育も遅れており、多少高値がついても燃料費を吸収できる水準には至つ

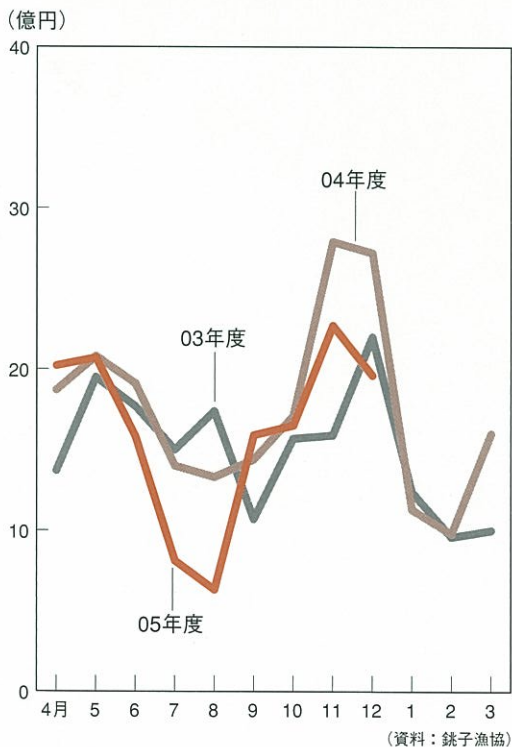
ていない。  
(酒井)

### 漁業

銚子漁港の05年10～12月期の水揚げ状況を見ると、数量(六万五九六ト…前年同期比+六・九%)は増加したものの、金額(五八・八億円…同▲十八・六%)は三期連続して前年を下回った。勝浦漁港では、数量(六八六ト…同+一・六%)、金額(四・一億円…同+三三・七%)ともに前年同期比で増加となった。

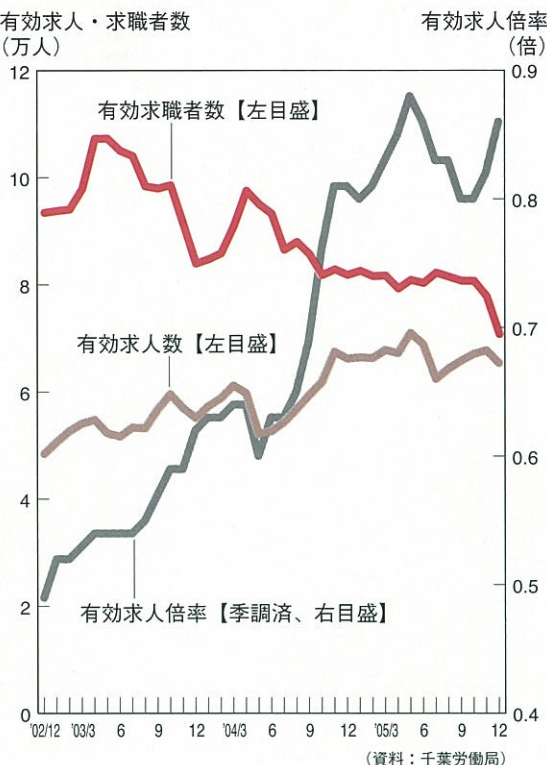
平均魚価の伸び悩み、燃料用A重油価格の高止まり、エチゼンクラゲの大発生など、県内の漁業関係者には厳しい状況が続いている。  
(菅合)

### 銚子漁港の水揚げ額



■千葉県内労働需給状況

有効求人・求職者数  
(万人)



千葉県の05年10～12月期の有効求人倍率(季調済)は、〇・八三倍と二期ぶりに改善(05年7～9月期〇・八二倍↓10～12月期〇・八三倍)したものの、引き続き全国平均を下回っている(全国有効求人倍率・同〇・九七倍↓同〇・九九倍)。雇用形態別には、一般〇・六六倍(前期比▲〇・〇一倍)、パート・一・三三倍(同+〇・〇七倍)となっており、一般が、ほぼ横ばいで推移する中で、パートは、改善傾向が続いている。

05年10～12月期の有効求人数(菅谷)

(季調済、月平均)は、前期比+〇・〇二%と横ばい。雇用形態別には、一般は減少(同▲一・八%)し、パートは増加(同+三・〇%)した。一方、有効求職者数は、同▲〇・七%と一〇期連続の減少、雇用形態別でも一般(同▲〇・二%)、パート(同▲二・二%)ともに減少した。

戦後最長ともいわれる景気の回復に伴い、求職者数の減少が続く中で、大手小売業の県内進出が相次いでいることから、パートの採用は難しくなっている。また、受注状況が好調な県内企業の間には、正社員の採用を増やす動きが広がっている。

雇用

■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移



注) 売上実績BSI=(「増加」-「減少」)÷2

05年10～12月期の企業の業況判断BSI(全産業)は五・三と三期連続で改善し、二期続けて「好転」超となった。今期の全産業および非製造業の業況判断BSIは、02年7～9月期に業況判断BSIの統計を開始して以来最高の水準となった。今回調査で規模別の全区分で改善かつ「好転」超となったことも本統計開始以来初めて。

売上実績BSI(全産業)も二・九(前回比+二・〇)と三期連続で改善した。収益BSI(全産業)は〇・一で前回比+五・五

改善し、現行区分の統計開始(95年7～9月)以来初めて「増加」超となった。生産BSI(製造業)は、大企業、中小企業ともに大幅改善し、全一〇業種中九業種が「増加」超となった。在庫BSI(全産業)は、四期連続で改善し、02年10～12月期以来三年ぶりに「不足」超となった。雇用BSI(全産業)は六期連続で「不足」超となっている。

05年度設備投資計画(全産業)は、04年度実績比+〇・四%の微増、期初計画比でも+〇・三%と上方修正となった。特に、製造業中小企業の上方修正が目だった。

企業経営  
動向調査(BSI)

(関)